独立歩兵第二百六十二大隊部隊略歴

大隊長　陸軍少佐　狩多江次男

年月日	概要
昭一八、九、三	独立守備歩兵第六十七大隊編成完結（於和歌山）
九、二三	和歌山出発
九、二五	南方派遣のため門司港出帆
一〇、五	昭南上陸
一〇、八	昭南ヲセレタレ港出帆
一〇、二〇	ヲニコバルレ諸島ヲカモルタレ島上陸ヲナンコーリレ港附近の防衛
一九、二、二七	独立混成第三十七旅団編成下令
三、一〇	編成完結
	独立歩兵第二百六十二大隊に改称
三、二六	昭一九、一二、二八附独立歩兵第二百六十二大隊附としてヲマレーレヲ南レ港出帆の天塩丸に便乗せる、陸軍経理部見習士官吉田兼次郎赴任中
二〇、三、二六	北緯一一度東経九五度五〇分の地点（海面）に於て敵駆逐艦並にBスの砲爆撃に依り船体沈没せし際、行方不明となる
二〇、九、一四	戦死確認

独立混成第三十七旅団長　皆　伝　武　久

1791

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

至一九、一〇、一九
二〇、七、七

「カモル夕」島に於ける第一次対空戦斗
「カモル夕」島に於ける第二次対空戦斗
戦死　将校一
戦傷　将校一　下士官一、　兵二

八、一四
三一、一、八
二一、一、二〇

終戦
「ニコバル」諸島「カルモ夕」島出帆
「リオ」諸島「レンパン」島上陸

歴代部隊長名
イ、中佐　皆伝武久
ロ、少佐　波多江次男

部隊事情精通者
和歌山県那賀郡粗野村大字垣内二六四ノ一　陸軍大尉　中尾歳一
大阪府北河内郡友呂岐村大字那八九三　陸軍准尉　中井徳次郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第二百六十四大隊第二中隊部隊略歴

中隊長　陸軍大尉　岡野一市

年月日	概要
昭一八、一二、二六	北支より転進
	南方方面軍の隷下に入る
	爪後ニコバル諸島テレツサ島警備
一九、一、二三	独立歩兵第六十七大隊長指揮に入る
一、三〇	第二十九軍の隷下に入る
三、一〇	軍令陸甲第百六号に依り独立混成第三十七旅団独立歩兵第二百六十四大隊第二中隊と改編
三、一〇	編成完結
八、一八	テレツサ島より転進
	爪後ニコバル諸島ナンコーリ島警備
二〇、三、三〇	ナンコーリ島より転進
	爪後ニコバル諸島カモルタ島警備
八、一四	終戦
	歴代部隊長名
	八、中尉　河本正男

1793

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

之 大尉 岡野一市

部隊事情精通者

東京都赤坂区青山南町五丁目六〇番地

陸軍中尉 小倉寛一

埼玉県埼玉郡南河原村大字南河原四〇七番地ノ四

陸軍准尉 大谷留五郎

埼玉県北足立郡鴻巣町桐生町二五一四

陸軍軍曹 橋本芳安

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第三十七旅団工兵隊部隊略歴

隊長　和佐田義明

年月日	概要
昭一九、三、五、	満洲国黒河省孫吳に於て編成完結 出戦の為孫吳出発
自一九、一一、二 至二〇、八、一四	「ニコバル」諸島防衛

歴代部隊長名

イ、中尉　矢寺三郎

ロ、大尉　和佐田義明

部隊事情精通者

東京都杉並区東荻町六八　赤羽方　陸軍中尉　白田秀夫

千葉県千葉郡生浜町北生実一、四〇四　陸軍中尉　錦織孝一

1795

マニラ三九内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十九軍司令部部隊略歴

年月日	概要
昭一九、一、七	軍令陸甲第三号により第二十九軍司令部の編成下令せられ
一、二九	馬来地南に於て編成完結
	軍作戦地域及任務
	緬甸領「メルギー」県以南泰国「チュンポン」県以南全馬来半島及「アンダマン」「ニコバル」諸島の防衛
	常時の軍基幹兵力
	馬来半島南部　五ヶ大隊（第十二、十八独立守備隊）
	泰領　二ヶ大隊
	緬甸領　一ヶ大隊
	アンダマン島　四ヶ大隊（南西第一守備隊）
	ニコバル諸島　三ヶ大隊（〃　第二〃）
	メンコーリ諸島　一ヶ大隊（メンコーリ支隊）
二、三	軍司令部は馬来「ペラ」州「タイピン」に移駐
一九、	軍令陸甲第一〇六号に依り南西守備隊改編せられ
三、一〇	独立混成第三十五乃至三十七旅団の編成完結
一九、二、一五	第十八独立守備隊を改編　第九十四師団の編成を完結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	軍は重点を北部馬来に指向
	師団主力をチユンポンレ及クラレ地峡附近に位置せしめ、作戦準備を強化すると共に、第九十四歩兵団司令部及歩兵一連隊の南部馬来に位置せしめ主として掃清討伐を実施せしむ
昭二〇、六、一八	独立混成第七十旅団を軍の隷下に入らしめ
	同旅団を中部馬来へクアラカンサルレ及イポレ附近に位置せしめ作戦準備を強化する一方、掃清討伐を実施せしむ
二〇、八、一	仏印駐留の第三十七師団は軍の指揮下に編入せらる為南下途中その先遣隊の一
八、十一	部は軍の指揮下に入り馬来ペナンレ州ブキントマタジヤムレ附近に駐屯、終戦となる。
至二〇、三、二〇、八	アンダマンレ　ニコバルレ諸島方面に英機動部隊来攻三回、其の都度撃退
	歴代軍司令官名
	中将　石黒貞蔵
	部隊事情精通者
	長崎県長崎市城山町南五番一五　副官　少佐　宮崎村吉
	山口県佐波郡小野村貞尾三二二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

愛媛県喜多郡大瀬村梅津

兵庫県加古郡加古新村四〇三八ノ一

大尉　井原勝利

少尉　佐古岡清美

准尉　福田成二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第百三十矢站病院部隊略歷

病院長　伊藤秀雄

年月日	概	要
昭五、一、一六	大阪に於て編成完結す	
一、三一	門司港出帆す	
二、二〇	昭南港上陸	
自昭 四、一二、三	下士官以下四名　昭南陸軍病院に入院	
四、九	アンダマン諸島転進のため昭南港出帆	
四、一四	アンダマン諸島ポートブレーア港上陸	
四、一六	第百三十矢站病院開設	
	爾後アンダマン諸島警備	
五、二七	衛生一等兵市川初男　戦病死	
六、一九	陸軍上等兵藤井藤三郎　戦病死	
六、二〇	陸軍上等兵杉岡政一　戦病死	
八、一八	陸軍上等兵谷　邦嶽　戦病死	
九、二五	陸軍上等兵藤原迫男　戦病死	
一〇、一八	軍医大尉大橋辰造　戦病死	
二〇、一、六	衛生矢長中村慶蓮　戦病死	

マライ　四〇内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、一七	衛生上等兵メ野　昇	戦病死
八、一四	休　戦	
九、二四	衛生矢長谷添松一	戦病死
二、一、六	陸軍上等兵松尾岩三郎	戦病死
一、一二	アンダマ諸島ブレーア港出帆	
一、一六	リオ諸島北部レンバン上陸	
六、一九	内地帰還のためリオ諸島北部レンバン出帆	
六、三〇	大竹港上陸	
七、二	復員完結	

歴代部隊長名

〃　陸軍軍医中佐　伊藤秀雄

部隊事情精通者

大阪府堺市一条通五丁目七〇　陸軍軍医大尉　瓦谷信太郎

京都府竹野郡弥栄村里部五三　陸軍衛生准尉　藤田初次

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

方百三十一矢站病院部隊略歷

病院長　渡辺純一

年月日	概要
昭一九、一一六	編成完結
一九、二、一	南方派遣のため門司港出発
二、一	大阪陸軍病院に矢一専属す
二、一〇	昭南港上陸
二、一一	昭南附近に於て待機
二、一〇	（戦病死将校一、矢一）
二、一五	南方方一陸軍病院に矢一入院　其後消息不明
四、二一	大阪陸軍病院に将校一、矢一専属す
四、二七	昭南港出発
五、二	南「アンダマン」海に於て魚雷攻撃を受け
	「イ」戦死　下士官一、矢二し
五、三	「アンダマン」諸島「ポートブレーア」上陸
五、三	「アンダマン」諸島「ポートブレーア」方百三十矢站病院に矢二入院、其後消息不明
五、五	「アンダマン」諸島「ポートブレーア」出発

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

自一九、五、九、五 至一九、九、四、五	病院の一部「アンダマン」諸島「ポートブレーア」に於て待機 （戦病死兵一）
六、二一	戦死兵二
五、六	病院主力「ニコバル」諸島「カーニコバル」島上陸
五、二四	大阪陸軍病院に兵一専属す
五、二五	大阪陸軍病院に兵一専属す
五、二八	大阪陸軍病院に兵一専属す
五、二九	大阪陸軍病院に兵一専属す
六、一五	後送患者船舶輸送中「スマトラ」島「サバン」島沖三〇海里（「ロント」島西北方）に於て魚雷攻撃を受け護送者下士官一、兵二、戦死
八、一	還送遺骨宰領のため下士官一、内地に出張
二〇、一、二	門司港上陸　其後消息不明
一九、九、二一	還送遺骨宰領者として内地に出張
	帰途、北緯一八度三十七分、東経一二〇度四一分附近に於て魚雷攻撃を受け下士官一、戦死（昭一七、七、一七陸亜普方一〇五一号にて処理）
一〇、一九	第九十四師団編成要員として船舶輸送中「ニコバル」諸島「カモルタ」島「ナンカウリ」港に於て船載機銃爆撃により戦死下士官一、兵二、
二、一〇	独立歩兵第二五八大隊へ将校一、専属す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭一九、二、一五	将校以下八一名ガ九十四師団編成要員として南方ガ八陸軍病院に専属す
二、二〇	大阪陸軍病院に矢一専属す
到二、九、八五、一四七	ニコバル島の防衛（上記期間中戦病死矢一四）
二〇、二、一	ガ九十四師団衛生隊に主計将校一専属す
二、三	大阪陸軍病院に軍医将校一専属す
五、一	南方ガ八陸軍病院に下士官一専属す
六、二〇	南方ガ八陸軍病院に矢一〇専属す
七、一	ガ二十九軍軍司令部に下士官一専属す
七、一	南方ガ八陸軍病院に矢二専属す
二、一七	集結地後退のためカーニコバル島出発
二、二四	ブリガル諸島ニ北レンパン島上陸
二、二六	還送患者として准士官以下一二名カーニコバル島出発
一二、五	南方ガ一陸軍病院収容　其後消息不明
二、三、六	ガ四日本技術中隊員として矢四、馬来に派遣、其の後消息不明
五、五	内地帰還のためガ七梯団として下士官一二、矢二二、ブレンパン島出発
五、二四	内地帰還のためガ十六梯団として将校二、下士官一、矢一、ブレンパン島出発

1803

マライ四一内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、二九　還送患者として病院船により下士官四、兵一七、フレンパンレ島出発

六、一一　内地帰還のため第十九旅団として将校四、下士官七、兵二九、フレンパンレ島出発

六、一四　内地帰還のため第二十三旅団として将校一、下士官六、兵二、軍属二、フレンパンレ島出発

六、一八　病院主力後員のため第二十六旅団として将校一六、准士官三八、兵一三七、フレンパンレ島出発

六、一八　病院主力出発に伴い下士官三、兵二、独立混成第七〇旅団に専属す

六、三〇　大竹港上陸

七、二　復員完結

歴代部隊長名

陸軍軍医中佐　渡辺純一

部隊事情精通者

福島県石城郡湯本町字三函二四〇　陸軍軍医中佐　渡辺純一

石川県羽咋郡柏崎村宿、田畑藤造方　陸軍主計大尉　北與一郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

マライ四一十

年月日	概要
	和歌山県有田郡藤並村大字天満五五八 陸軍衛生准尉　須佐見辰治

(169)

1805

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

方百三十五兵站病院部隊略歷

病院長　稲田精一

年月日	概要
昭一九、一、一七	広島陸軍病院に於て編成完結（四九一名）
一、三一	南方派遣の為門司港出港
二、一〇	昭南港上陸
二、二五	馬来「クアラルンプール」に於て部隊長軍医少佐稲田精一着任
自 二、二八	「マラッカ」海峡「タンジュンバライ」沖（北緯二度五十七分　東経一〇〇度
至 二、二九	二〇分）に於ける対潜水艦戦斗
	本戦斗に於て部隊人員二五六名中二二一名（将校一七、下士官兵二〇四）戦死す
五、一三	新部隊長軍医中佐稲田精一着任す
五、二九	馬来「ポートスエッテンハム」港出港
五、三一	「スマトラ」「テロニボン」港上陸
六、二四	「スマトラ」「メダン」に於て南方方八陸軍病院より八三名の補充を受く
八、一	「スマトラ」「オレレ」港出港
八、三	「ニコバル」諸島「カモール」島到着
八、五	「カモール」島に於て病院開設

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
自昭一九、一〇、一九 至二、三	㋕カモールタル島附近　㋕一次対空戦斗に参加し、傷者五〇名を収容す ㋕カモールタル島北部地区に患者療養所を開設す
二、一五	㋕九四師団衛生隊要員として六三名転属す
二〇、七、七	㋕カモールタル島附近、㋕二次対空戦斗に参加し、傷者二名を収容す
八、一四	終戦
二、一〇	本日迄に於ける収容患者　総数六八一名にして、㋕カモールタル島病院開設以来七回に亘り患者二二三名をスマトラ及マライに後送す 北㋕カモールタル地区に開設しありし患者療養所を閉鎖す（収容患者総数約七〇名）
二、一、七	病院閉鎖
自一九、二、三 至二、一、七	病院開設間収容患者総数九八〇名 現住民に対し施療を実施す
三、一、八	移駐の為㋕ニコバル諸島㋕カモールタル島出発
一、三一	馬来㋕リオ諸島㋕レムパン島上陸
一、二五	北㋕レムパン島に於て病院開設
六、一四	病院閉鎖

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、一八　病院間設間収容患者総数三三四名
　　馬来ヨリオレ諸島ヨレムパンレ島出発
六、三〇　大竹港上陸
七、二　復員完結

歴代部隊長名

〃　軍医少佐　廣津　格
〃　軍医大佐　稲田精一

部隊事情精通者

広島県呉市仁方町戸田　陸軍軍医大尉　岸　澄三
広島県比婆郡庄原町大字庄原一五二八　陸軍軍医大尉　梶川重蔵
広島県三原市須波西町三二六〇　陸軍衛生曹長　能方宗三
広島県尾道市栗原町五二〇ノ一　陸軍衛生曹長　木曽春夫

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立野砲兵第一大隊部隊略歴

大隊長　塩田三郎

年月日	概要
昭八、九、一六	編成下令（軍令陸甲第八十六号に依る）
	在満洲黒河省孫吳野砲第一連隊に於て
九、三一	編成完結
	部隊編成完結時に於ける編成表別表第一の如し
九、二三	南西方面派遣の為黒河省孫吳出発
二、二七	フカーニコバル島上陸
	爾後同地警備
二〇、八、一四	終戦
二一、八	以降フレンパン島移駐開始、六次に亘り輸送
二一、一、二八	移駐完了す
	編成完結以降に於ける死亡、転属、転入、入院、派遣、勤務者 別紙第二其の一、其の二、其の三の如し
	内地帰還者別紙の通り添付す
	歴代部隊長名
	八、陸軍中佐　坂上繁雄

1809

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

之、陸軍火佐　塩田三郎

部隊事情精通者

兵庫県赤穂郡赤穂町折方一四四八

陸軍火佐　塩田三郎

東京都目黒区上目黒三ノ一七六七

陸軍大尉　鶴巻琴一

復員に於ける部隊人員一覧表別紙第一其の二の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十九軍建築勤務第四十七中隊部隊略歴

第三小隊長　村中源太郎

年月日	概要
昭一六、八、二	編成完結
九、一	満洲三江省佳木斯に駐屯、建築業務に従事
一二、二	仏印西貢に転進 〃
自一六、一二、八 至一七、一〇、一	大東亜戦争に参加　馬来方面にありて鉄道輸送並に警備に任す
自一七、一〇、四 至一八、九、三三	泰国に於て鉄道輸送に並に警備に任す
一八、九、三三	アンダマン群島に転進
自一八、一〇、四 至二〇、八、一四	アンダマン群島防衛並に建築作業に従事
八、一五	此間戦病死者　下士官四、兵二六名
八、一七	終戦
	独立混成第三十五旅団司令部に戦属
	歴代部隊長名
	陸軍大尉　山崎満夫
	部隊事情精通者

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

奈良県高市郡畝傍町大字和田出屋敷
陸軍曹長　中井忠七
大阪市港区南市岡町一丁目五番地
陸軍曹長　島津金一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十九軍特設自動車第十六大隊部隊略歴

大隊長　浴谷良雄

年月日	概要
昭一九、一二、二〇	昭南第七方面軍野戦自動隊に於て編成完成（第三中隊）
	第七方面軍司令官に隷し、昭南に在りて同地附近軍需諸物資の輸送に従事
二〇、一、二六	第三中隊の編成を完結
自 二、二二	第三中隊第十六野戦輸送司令官の指揮に入る
至 六、一〇	南部泰に於ける作戦用緊急道路構築に従事
五、二五	昭南より中部馬来に転進、
	大隊主力は「クアラルンプール」に、第一中隊は「スンゲイパタニ」「アロルスターレ」に位置（「タイピン」に移駐）し、馬来地区兵站基盤設に伴う軍需資材の輸送に従事
五、一	第二中隊は振武集団長の指揮に入り、昭南に在りて該集団の作戦並に輸送に従事す
八、一四	終戦
八、一五	第七方面軍より第二十九軍に隷属を転移せしめらる
八、一八	軍隊区分による第二十九軍特設自動車第一中隊の准士官以下三十五名転属せしめらる

1813

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

八、二五	軍隊区分による第二十五軍特設自動車第六中隊の中隊長以下四十五名転属せしめらる
八、二八	八月二十五日転属せる第二十五軍特設自動車第六中隊の主力集結の為「ペラ」州「クアラアンサル」より「クアラルンプール」に向い転進中、「スリムリバー」（「クアラルンプール」北方約九十粁）附近に於て英軍約三百の襲撃を受け、戦死将校一名（中隊長）下士官三名、兵七名、生死不明兵一名の損害を受く
二二、五、九	内地帰還の為、豚永大尉以下二十四名「シンガポール」出発
五、一八	宇品港上陸す
	復員完結
	歴代部隊長名
	〃 大尉 渋谷良雄
	部隊事情精通者
	千葉県香取郡飯高村飯高五五二
	（大隊長） 陸軍大尉 渋谷良雄
	福岡県三潴郡大塚村字清松
	（副官） 陸軍大尉 高山亀雄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
	兵庫県津名郡浦村中持 （六三中隊長）陸軍大尉　藤永春重 東京都杉並区阿佐ヶ谷町三丁目三〇九番地 （主計）陸軍主計中尉　清水金五郎 長野県長野市大字栗田三四番地 （軍医）陸軍軍医少尉　三戸部亀夫 岡山県邑久郡牟佐村大字東牟佐六四六番地 （書記）陸軍准尉　成本直枝

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設自動車第十七中隊部隊略歴

陸軍大尉　岸沢武雄

年月日	概要
昭一八、六、二〇	スマトラ島メダンに於て特設自動車第十七中隊編成完結 中隊長陸軍中尉岸沢武雄将校五、下士官兵六三　兵補九九　計一六七名
八、一八	竹内正一一等兵戦病死
九、二五	「メダン」より「パレンバン」に転進「パレンバン」防衛司令部の指揮下に入る
一〇、一〇	南部スマトラ島警備
一一、二〇	宮原頼治伍長、近衛輜重兵聯隊補充隊に転属
一九、一、二〇	中村太久馬伍長補充要員として転入
一、	本来南方軍臨時施設隊の指揮下に入り輸送業務に従事
五、	福島旭中尉、昭南防衛司令部に転属
二〇、四	中村正義軍曹中尉、南方第一陸軍病院に転属
四、一五	大木政太郎少尉、遠者として内地還送
四、二八	陸軍少尉足羽利秀、同奥村春暢、同中野音弥、同高橋徳太郎、同石飛洸、陸軍軍曹少尉武部晃吉補充要員として転入
四、三〇	「スマトラ」島「パレンバン」より馬来に転進

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、六、	第七方面軍第十六野戦輸送司令部の指揮下に入り輸送業務に従事
八、一四	終戦
八、一五	陸軍伍長平野正男、陸軍兵長妹川虎之助戦病死
九、一八	陸軍兵長吉富正人 同大坪時男、不慮死
二三、五、一八	中隊長以下十六名馬来より内地帰還
	宇品に上陸
	責任者氏名
	陸軍大尉 岸沢武雄
	帰還後の連絡先 埼玉県川口市本町一丁目一三六

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

特設第五十九機関砲隊部隊略歴

隊長　伊奈久伸

年月日	概要
昭一九、九、一〇、	編成完結 スマトラ島に転進、 爾後同地警備
二〇、五	満州に転進
八、	爾後同地警備 全期間を通し損耗人員無し 終戦

歴代部隊長名

中尉　伊奈久伸

部隊事情精通者

和歌山県日高郡矢田村大字小熊二二九七

陸軍中尉　伊奈久伸

兵庫県赤穂郡赤穂町上仮屋三九九

陸軍曹長　山崎正一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十九軍野戦兵器廠略歴

陸軍大佐　松本　彬

年月日	概要
昭一〇、五、一〇	軍令陸第六八号に依り「マライ」半島「イポー」に於て編成完結
	本廠を「イポー」に、支廠を「クアラルンプール」に置き、出張所を「プライ」及「ハゲヤイ」に開設す
	第二十九軍隷下部隊に対する野戦兵器廠業務
六、八	技術下士官候補者として分遣中の千葉技術伍長及寅丸技術伍長は「パンドン」より帰隊中「バンカ」海峡附近に於て敵潜水艦の攻撃を受け戦死せり
七、一〇	「ハゲヤイ」出張所閉鎖す
七、一六	平賀上等兵「イポー」に於て戦病死
昭一六、一二、五	「ペラ」高原「フレザーヒル」に派出所、「ラウズ」「グリク」に出張所を開設す
八、一四	終戦

歴代部隊長名

〃　陸軍大佐　松本　彬

部隊事情精通者

本廠関係

1819

マライ四五内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

茨城県眞壁郡柴尾村大字柴尾二一五九　陸軍大尉　宮馬恒三

クアラルンプール支部関係

千葉県市川市川外二〇七一八　陸軍少佐　佐久間新助

「プライル」及「グリクル」出張所関係

長崎県佐世保市春日町六一〇　陸軍大尉　長戸明治

「ラウグル」出張所関係

埼玉県秩父郡秩父町中村　井上武三郎方　陸軍大尉　関根喜吉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十九軍野戦自動車廠部隊略歴

陸軍中佐　江口藤作

年月日	概要
昭二〇、五、八	軍令陸甲第六七号に依り第二十九軍野戦自動車廠編成下令
五、一〇	第二十九軍野戦自動車廠編成完結
自二〇、五、一〇	第二十九軍野戦自動車廠と呼称
至二〇、八、一四	本廠を「イポー」に、支廠を「クアラルンプール」に、同派出所を「ポートセッテンハム」に、出張所を「ハジヤイ」及「プライ」に夫々開設し、主として「ジヨホール」洲以上「ペラ」河以南地区に於ける補給担任諸部隊に対する修理補給業務に任ず 現戦局の急迫に即応する補給実施強化のため、出張所の増設、軍需品の格納並整備に任ず 六月下旬、マライ地区戦局の急迫に伴う補給修理業務強化のため「ハジヤイ」出張所を閉鎖し、「イポー」本廠に復帰すると共に、補給修理業務並軍需品の格納洞窟の整備強化に任ず

歴代部隊長名

イ、中佐　江口藤作

部隊事情精通者

1821

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東京都浅草区蔵前三丁目二二
陸軍大尉　大藤好輸
神奈川県津久井郡千木良村一〇八五
陸軍大尉　石井貞司

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十九軍野戰貨物廠部隊略歷

陸軍主計中佐　大石勝郎

年月日	概要
昭二〇、五、一〇	馬來「クアラルンプール」に於て編成完結
	補給業務に従事
八、一五	終戰
	歴代部隊長名
	主計中佐　大石勝郎
	部隊事情精通者
	大阪市天王寺区南河堀町一三　陸軍薬剤大尉　塩谷湧介
	福岡県ア畑郡大字ア畑入一　陸軍主計中尉　近藤禎助
	静岡県田方郡伊東町松原四四　陸軍主計中尉　里見良平
	北海道室蘭市西小路町一一　陸軍主計准尉　土井久光

マライ　四六内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十九軍第三通信隊独立有線第百二十九中隊部隊略歴

中隊長　岡本忠明

年月日	概要
昭一九、一二、	満洲より転進
二〇、四、二八	本来、馬来骨幹通信網の構成並に保守及び之が通信連絡に任じ、終戦に至る 上等兵三宅巡、「クアラルンプール」通信所員として勤務中、線路試験のため中隊糧秣輸送自動貨車に便乗し、電話局に赴く途中、転落し頭部打撲（脳損傷）のため直ちに南方第八陸軍病院に入院、即日戦死す
五、一二	下士官以下十六名通信線路補修のため自動貨車（一）により「クアラルンプール」「セレンバン」に道路に南進中「ガチアンン」南方約六千の地点に於て自動小銃を有する共匪約五〇名の奇襲射撃を受け兵二名（上等兵橋本龍蔵、右前頭部貫通銃創一等兵森田清左肘部貫通銃創）戦死三名、重傷負傷者は二名治癒、退院、一名は目下入院（南方第八陸軍病院）中なり
八、一七	一等兵福口貞七郎「ラウブ」通信所員として勤務中、マラリア熱帯熱に罹り、南方第八陸軍病院「ラウブ」患者隔離に於て戦病死す
八、二三	兵長宮本位クアラルンプール中隊本部に於て自動車操縦手として勤務す、終戦後市内の治安状況頓に悪化しありたるを以て下士官以下五名の警戒兵を附し自動車修理のため市内修理工場に赴く途中、共匪ランキ者の射撃を受け頭部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、九、二	盲貫銃創のため戦死す 兵二名逃亡、兵長西島美之、兵長熊谷熊一は第一小隊に属し「クアラルンプール」市内「ゲルロード」に分屯し終戦後の諸物件引継準備並警戒に任じありたり （西島兵長） 中隊は当日連合軍進駐のため速かに宿舎を後退すべく命を受け全力を以て隊貨の輸送に任じたりたりしが、二十時三十分頃分隊長は小休止を利用し、人員点検をなしたる際之が不在を発見（二十時迄積載に任じありたり）直ちに小隊長に報告すると共に臨時点呼を実施し其兵舎内外を捜索せしに、同兵長の残置せる一部装具中より遺書（内容国家の将来を慷慨し逃亡を決意せるもの）を発見し逃亡せる事実を確認せり （熊谷兵長） 当日宿舎附近の器材庫警戒兵として服務しありしが、西島兵長不在による臨時点呼を受けし際、同令は同兵長をして通信所（約百米離隔）に中隊との電話連絡の為派遣せし旨を報告すると共に直ちに該所に至り調査せし所、来所の事実なく兵舎に至り装具を点検せしに無きを以て、更に捜索を続行せしも遂に発見し得ず、西島兵長と共に逃亡せるものと認む。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二〇、九、一三

上等兵保坂勝男、「クアラルンプール」に駐留中、急性粟状結核に罹患し、南方の陸軍病院に於て戦病死す

歴代部隊長名

〃　陸軍大尉　岡本忠明

部隊事情精通者

岡山県倉敷市水江一二五八　陸軍大尉　岡本忠明

山口県宇部市東区本町一丁目四三二　陸軍中尉　宮田勇

山口県岩国市大字向今津二八七一　陸軍准尉　平岡勇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三通信隊本部部隊略歴

隊長　川島関太郎

年月日	概要
昭一九、一〇、二五	馬来「タイピン」に於て編成完結 編成左の如し 第三通信隊本部 独立有線第九十七中隊 独立有線第百二十九中隊
二〇、五、一〇	爾後馬来に於て作戦並に警備通信
八、一四	独立無線第四中隊編成され第三通信隊長の指揮下に入らしめらる
九、一五	終戦
一二、三	「サラクノース」へ転進
一二、一六	「レンガム」へ転進
二一、五、一	南「レンパン」島上陸
二一、五、二	南「レンパン」島出発
五、一二	名古屋港上陸
	復員完結
	部隊第情精通者

マライ四七内

1827

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

神戸市須磨区星水町星水三〇八　村井方

陸軍中尉　城村博身

東京都江戸川区春江町二ノ三四　河本方

陸軍曹長　山本隆俊

添付書類

一、留守名簿　一冊

二、編成表　其の一　其の二　各一部

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南方第八陸軍病院部隊略歷

年月日	概要
昭一七、一〇、一五	南方第八陸軍病院は第九十三兵站病院を改編し、編成せらる 編成完結 本院所在地 編成完結より終戦時迄、馬來クアラルンプール 分院及療養所 1、イポー分院 2、スンゲーパタニ分院 3、クアラリビス分院 4、ブキテンギ分院（スマトラ） 5、チユンポン分院（泰国） 6、カメロン高原療養所 7、ラウブ患者療養所 8、寿山温泉療養所 9、メルキー患者療養所 歷代病院長名 初代　陸軍軍医大佐　嶋田昇

1829

マライ 四七外

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

加二代　陸軍軍医大佐　今村朔雄

部隊員の損耗（九名）

一九、四、二四	戦病死	陸軍衛生兵長　二ノ湯重雄
	留守宅	三重県員弁郡員弁町字野一二〇四
一九、五、三一	戦病死	陸軍衛生曹長　上田辰造
	留守宅	名古屋市南区豊田町東畑二七二五
一九、九、一四	戦病死	陸軍衛生上等兵　荒木眞一郎
	留守宅	東京都北多摩郡府中町八九五六
一九、一二、二四	戦病死	陸軍衛生軍曹　沖　留次郎
	留守宅	滋賀県蒲生郡金田村大字上田一五五九〇
二〇、八、二一	戦病死	陸軍衛生軍曹　佐藤　僑
	留守宅	広島県豊三郡八幡村清綱五九九
二〇、九、一九	自殺死	日赤救護看護婦　渡辺玉江
	留守宅	東京都荏原区小山町五ノ六二
二一、二、二六	戦病死	陸軍衛生伍長　千切幸男
	留守宅	奈良県吉野郡白銀村西新子二八〇
二一、三、一二	死亡	陸軍衛生曹長　山本忠三郎
	留守宅	京都市伏見区中島堀端町三三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭三、三、二六	死亡　陸軍軍医大尉　矢島光雄 出守宅　長野県上伊那賀伊那富村大字辰野一七八 編成当時の職員表別紙の如し 部隊事情精通者 北海道網走市南五条西三丁目 陸軍衛生少佐　大場林造 福井県坂井郡鷹巣村北曽生九ノ二 陸軍衛生准尉　刀弥一英 京都府相楽郡西和束村字白栖小字長井 陸軍衛生准尉　西嶋卯三郎 京都市上京区大将軍坂田町一 陸軍衛生准尉　高田米治右エ門

マライ四八内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立混成第七十旅団司令部部隊略歴

旅団長　小田正人

年月日	概要
昭一九、一二、一〇	仏領印度支那に於て旅団編成完結
一二、一〇	南部仏領印度支那の警備に任ぜらる
自一九、一二、一〇 至二〇、三、八	其の編成兵力及警備地は別表附表第一の如し 此の間、敵機の空襲を受け、之との交戦にて戦死者准士官一、下士官兵二、兵四を出せり （別表附表第二其の一）
自二〇、三、九 至二〇、五、三	明号作戦参加 本作戦間に於ける損耗人員別紙附表第二其の一の如し
二〇、五、四	南部仏領印度支那の警備任務を第二師団に申送り、馬来に転進のため輸送開始
二〇、六、三	馬来中部管区の警備を引継ぎ管内の治安確保に任す
六、二八	泰国「バンコック」に於て転進間の兵団連絡所勤務の衛生下士官一、行方不明
七、三一	旅団転進終了
	本輸送間に於ける損耗人員別紙附表第二其の二の如し 旅団隷下各部警備位置左の如し 司令部（旅団自動車隊を含む）独歩四三〇「ペラ」州「クアラカンサル」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要
昭二〇、七、三一	独歩四二八
	独歩四二九　旅団砲兵、同工兵、同通信、同戦車　「ペラレ」州「イポー」
	独歩四三一　「ペラレ」州「バタンレングス」
	同　「マノンレ」
昭二〇、八、一四	終戦大詔渙発せら れ戦斗行動停止す
八、一四	司令部主計下士官一、兵一、戦死（自殺）す
九、一四	離隊逃亡者、将校一、下士官八、兵五
九、一五	同　下士官一、兵二
九、一六	同　下士官一、
九、一六	馬来「ペラレ」州「ビドルレ」の力六露営地に集結、終戦処理に任ず
二、以降	終戦後「ビドルレ」力六露営地集結時編成別紙附表力三の如し
	以降、英側指示に依り逐次蘭領「リオレ諸島「レンパンレ」島に移駐す
	馬来に残留せるものは力二十九軍司令部に転属す
	終戦後の損耗人員別紙附表力二其の三の如し
	歴代部隊長名
	少将　小田正人
	部隊事情精通者
	富山県婦負郡長岡村北代新二六〇

人名表別紙附表力四の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍大尉　中村清一

富山県富山市桜町七七四

陸軍大尉　布村宰英

山形県東田川郡十六合村大字前田野月

陸軍少尉　門脇柳吉

添付書類

1、終戦時派国将校、准士官、下士官職員表

2、編成以来の死亡者一覧表

（昭和十九年陸達第七六号に依る速報集計）

3、行方不明（逃亡）者連名簿

4、隷下部隊略歴写

司令部、独歩四二八、独歩四二九、独歩四三〇、独歩四三一、戦車、砲兵、工兵、通信、機関砲、高射砲、建築、製材

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四百二十八大隊部隊略歴

大隊長　柴田　一

年月日	概要
昭一九、一二、一〇	仏印に於て編成完結 部隊は南部印度支那警備司令官独立混成第七十旅団長の指揮に入り、西地区警備隊となり、主力は「金立」に位置し「カンボチヤ」地区全域の警備に任ず 第三中隊は独立歩兵第四二九大隊長の指揮下に入らしめられ「聖岬」に在りて同地域の警備に任ず
二〇、一、一二	「聖岬」警備隊より米遣の北部仏印海上輸送糧秣の警戒勤務中「バリヤ」州「デガ」岬航行の際、敵艦載機の大空襲を受け下士官、兵四名戦死、准士官一、下士官兵五名負傷
一、二五	第三中隊は同地警備を独立歩兵第四三〇大隊に申送り部隊主力の位置に復帰す
八、一四	大詔換発せられ戦斗行動停止す
八、二八	「ビドル」西南方十粁の地点に於て第四中隊は匪賊と交戦中下士官兵一、兵一戦死、兵一負傷す
八、下旬	終戦後、匪賊跳梁し「タパー」「バツガヂヤ」「チエモール」「タンジヨンランブタン」「カニパル」夫々一ケ小隊を配置し治安確保に任ぜしむ
九、六	南部馬来「イポー」に於て第一中隊兵二名離隊逃亡、行方不明

1835

マライ四九内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、一五

南部馬来「イポール」に於て本部矢一名、行方不明

歴代部隊長名

大佐　柴田　一

部隊事情精通者

山形県鶴岡市家中新町拾四ノ内番地拾の一　陸軍軍医大尉　遠藤友輔

秋田県雄勝郡湯沢町字平清水新町二〇　陸軍大尉　石川久太郎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四二九大隊略歴

大隊長　吉岡喬蔵

年月日	概要
昭一九、一二、一〇	部隊編成完結
自一九、一二、一〇 至二〇、五、一五	仏領印度支那西貢に位置し、南部仏印警備
自二〇、三、九 至二〇、五、一五	明号作戦参加
	本期間に於ける損耗人員
	戦死　准士官二、下士官五、兵三
	戦病死　兵一
	災死（自殺）兵一
	合計　一二名
自二〇、五、四 至二〇、七、三一	行方不明及敵手に入りたるものなし
	転進のための輸送
	本期間に於ける損耗人員
	戦死　下士官以下三
	戦病死　兵一
	行方不明及敵手に入りたるものなし

マライ四九外

1837

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二〇、八、

八、一四

九、一五

馬來「ペラク」州「ペタンレンガスク」に位置し、中部馬來の警備

終戦

英軍の指示に依り「ペラク」州「ビドルク」外六箇所地に集結、

爾後逐次「スマトラク」領「ルオク」諸島「レンパンク」島に移駐

本期間に於ける損耗人員

戦病死　下士官一、

行方不明　なし

歴代部隊長名

陸軍大佐　吉岡喬蔵

部隊事情精通者

愛知県豊橋市中八町官員町三五　陸軍大佐　吉岡喬蔵

愛媛県東宇和郡石城村山田一番耕地二九　陸軍大尉　岡崎永則

秋田市土崎港町清水町旭岱三　陸軍大尉　須磨　斉

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

独立歩兵第四三〇大隊部隊略歴

大隊長　武部　俊

年月日	概要
昭一九、九、一八	軍令陸甲第　号に依り編成下令
一二、一〇	仏領印度支那西貢に於て編成完結
	爾後仏印印度支那南部の警備
一二、二八	仏領印度支那聖岬に転進
	同地附近の警備
自二〇、三、九 至二〇、五、二	明号作戦に参加
	聖岬附近に於て、将校一、兵三戦死、戦傷死　二名
自二〇、五、一三 至二〇、八、一四	馬来に転進
	爾後馬来警備
八、一四	終戦
九、一五	警備地馬来ペラ州メルボー出発
九、一五	逃亡者　下士官一（其後の状況不明）
一二、六	シンガポール港出発
一二、六	北部レンパン島着

1839

マライ　五〇内

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

編成以来戦病死者　下士官一、兵七（編成以来の死没者別記の如し）

歴代部隊長名

少佐　武部　倩一

部隊事情精通者

石川県金沢市長町八番町三二　陸軍中尉　山森寅吉

長野県上伊那郡赤穂町大字下平二五　陸軍少尉　下村與喜

山形県飽海郡観音寺大字芋田字北田三一　陸軍准尉　池田良治

別記

二〇、三、九	聖岬	3	戦死	中尉　山下一
〃	〃	〃	〃	上等兵　小林芳一
〃	〃	〃	〃	一等兵　石沢重巳
〃	〃	〃	〃	一等兵　庄倉信重
三、五	西貢	〃	戦病死	上等兵　長田辰三郎
三、九	〃	〃	〃	上等兵　谷口弥治兵衛

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

年月日	概要			
昭二〇、四、二一	昭南	4	戦傷死	一等兵	河村忠蔵
	聖岬	2	戦病死	軍曹	只野正好
五、一	香港	2	戦傷死	一等兵	岩崎正雄
七、一九	泰(スラトニ)	1	戦病死	上等兵	大植広
八、一二	馬来(クワラカンプル)	3	〃	一等兵	川瀬繁義
八、一九	〃	〃	〃	〃	尾作弥五郎
一二、	馬来	4	〃	〃	吉原誠造
二一、二、二	レイパー島	〃	〃	衛生上等兵	池崎正松

1841

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp